



1 首斬観音

昭和初期、国道16号線建設の際、骨が出てきたともいわれ、現在の場所に祭られました。正面の碑には「首斬観音」と彫られており「昭和三年七月十二日梅月書」とあります。松竹庵梅月は田浦に住み、全国に数千人の弟子を持った俳人でした。左右の碑は、銘文から天保11年(1840)に建立されたことがわかります。現在でも町内の人たちにより、線香や花が供えられ供養されています。お堂の前を通る山裾の道は浦賀みちで古道の面影を残しています。

2 鷹取山

標高139mの鷹取山は、垂直に切り立った岩壁が特徴で、「湘南妙義」の別名があります。明治中期から昭和初期まで石材を採取したため、現在の奇峰が形作られました。切り出された石は、耐火性に優れ、土蔵などの建築用材や家庭用のかまどにも利用されていました。また、東京湾の海堡(かいぼう)建設にも使用されました。そびえ立つ岩肌を開いている無数の穴は、ロッククライミングの練習で打ち込まれたハーケン跡です。山頂からの眺めも抜群で、晴れた日には富士山から伊豆、箱根、房総半島まで雄大なパノラマを楽しむことができます。休日にはハイキングを楽しむ人々にぎわいます。

鷹取山での岩登りは原則禁止です。詳細は鷹取山安全登山協議会(☎046-851-0215)へ。岩山には、巨大な弥勒菩薩尊像が彫られています。彫刻家の藤島茂氏が昭和35年から約1年かけて製作したもので、像高約8m、像幅約4mもあります。

6 神武寺

聖武天皇の夢に現れた薬師如来の「東方に寺を建てよ」とのお告げから、神亀元年(724)に行基により創建されたといわれています。鎌倉に幕府を開いた源氏が信仰し、頼朝による妻政子の安産祈願や、実朝が痲瘡平癒の参詣を行ったことが『吾妻鏡』に記されています。本堂である現在の薬師堂は神武寺に現存する最も古い建築物で、寛文6年(1666)に再建されたといわれています。鐘楼は安政3年(1856)の建造で「神武寺の晚鐘」として知られています。境内には、樹齡400年といわれる「なんじゃもんじゃ」の巨木や、イワタバコが自生しています。本尊は木造薬師如来坐像が祭られています。本開帳は33年に一回で次回開帳は2017年。ただし毎年12月13日の「お煤払い法会」には開帳されます。